



グローバルビジネスコース（GBC）レポート

令和8年9月第12号

1. GBC留学生の概要（9月入学生）

令和8年8月1日現在、GBCには28か国・1地域から計152人の留学生が在籍しており、地域別では東南アジアの割合が高い傾向となっています。

グローバルビジネスコース留学生在籍者数

地域区分	国・地域	在籍者数
東アジア	中国	2
	モンゴル	18
	台湾	7
	小計	27
東南アジア	カンボジア	1
	インドネシア	33
	ラオス	4
	マレーシア	2
	タイ	21
	ベトナム	31
	小計	92
南アジア	バングラデシュ	5
	インド	3
	パキスタン	2
	小計	10
中央アジア・中東	カザフスタン	1
	トルコ	3
	小計	4

地域区分	国・地域	在籍者数
北米・中南米	カナダ	1
	コロンビア	1
	小計	2
ヨーロッパ	ベラルーシ	2
	リトアニア	1
	ルーマニア	4
	イタリア	1
	ハンガリー	1
	小計	9
アフリカ	ガンビア	1
	モザンビーク	1
	ニジェール	1
	ルワンダ	1
	南アフリカ	1
	ザンビア	1
	ウガンダ	1
	エジプト	1
	小計	8
総 計		152

※入学時の登録国籍で計上

2. 授業関連

(1) 日本文化体験

① 宿泊研修

2026 年 4 月 18 日から 19 日にかけて、留学生たちは「Program to Experience Japan（日本文化体験プログラム）」の授業で、一泊二日のフィールドトリップに出かけました。



初日は、播磨科学公園都市にある SPring-8 や SACLA など、世界有数の先端科学研究施設を見学しました。研究者からビームラインや蓄積リングの仕組み、その研究の実社会での応用について詳しい説明を受け、先端研究の成果を社会の発展や課題解決へと結び付ける視点の重要性を学ぶ貴重な機会となりました。

午後には兵庫県立大学西はりま天文台へ移動し、天文学の講義を受講後、口径 2 メートルを誇る国内最大級の「なゆた望遠鏡」を用いた天体観測を体験しました。

2 日目は、兵庫県立人と自然の博物館を訪れ、丹波竜の化石標本をはじめ、地域の生態系を伝える数々の展示を見学しました。本物の化石に触れる体験や、絶滅危惧種であるコウノトリの保護活動について学び、人と自然の共生や生物多様性への理解を深めました。

この二日間のフィールドトリップでは、最先端科学や天文学、自然環境について幅広く学ぶとともに、科学技術と社会との関わりや、持続可能な社会の実現に向けて一人ひとりが果たすべき役割について考える、素晴らしい機会となりました。

② 生き残るための学び：兵庫で防災訓練に挑む

6 月 5 日、留学生たちは、三木市の兵庫県広域防災センターを訪れ、地震体験、煙からの避難訓練、緊急物資倉庫の見学という 3 つの防災学習に参加しました。

地震体験では、さまざまな震度に加え、過去に発生した大規模地震を再現した揺れを体験しました。煙からの避難訓練では、訓練用の煙（蒸気）で満たされた迷路の部屋に入り、全員が 1 分以内に無事に出口へたどり着きました。最後に、防災公園内のグラウンドの裏手に位置する倉庫の見学では、緊急物資や設備の保管方法について説明を受けました。



この実践的な学習体験により、留学生たちは地震やその他の自然災害についての理解を深め、防災意識を高めることができました。

③ 和菓子について学ぶ

「日本文化体験プログラム」の一環として、留学生たちは和菓子文化について学びました。伝統的な和菓子店を数軒訪問し、実際に和菓子作りを体験する活動も行われました。

《姫路で和菓子体験》



5月8日、留学生たちは姫路で校外学習を実施し、姫路城近くの土産店を訪れました。色鮮やかな練り切りから定番のどら焼きまで、商品の品揃えや購買意欲を高める工夫について調査を行いました。

また、実際に試食し、自国の食文化と比較しながら、和菓子特有の味や食感、海外市場における受容の可能性について考察しました。

その後、ユネスコ世界文化遺産に登録されている

姫路城を訪れ、歴史的背景を学ぶことで、日本の伝統文化に対する理解を深めました。それとともに、白く壮大なその姿は息をのむ美しさで、留学生の中には、これまでに訪れたお城の中で特に印象的なものとなったとコメントする学生もいました。

本校外学習は、和菓子の商品開発やマーケティングについて実地に学び、日本の歴史や文化への理解と参加者間の交流を深める実りある一日となりました。

《満月堂訪問》

5月22日、留学生たちは、1882年創業の老舗和菓子店「満月堂」を訪れ、神戸市北区で受け継がれてきた伝統的な和菓子製造工程の見学と老舗の経営について調査を実施しました。

また、京都風のこしあんを包んだふんわりとした蒸し饅頭「豊助饅頭」と、涼やかな甘さのゼリー状の外皮が特徴の夏の味覚「水饅頭」を味わい、地域の伝統産業が持つ技術的・文化的価値について学ぶ機会を得ました。

さらにこの日は、かつて参勤交代の大名も利用したとされる歴史ある宿舎「淡河宿本陣跡」も見学しました。



《和菓子作り体験》



6月19日、兵庫県菓子工業組合より6名の熟練した和菓子職人をお招きし、本学にて和菓子作りの体験を行いました。職人の皆さんの丁寧な指導のもと、留学生は桜と菊をかたどった「練り切り」の製作に挑戦しました。

用意された練り餡とあんこを使って練習を重ね、ピンク色の桜と淡いオレンジ色の菊を、それぞれ美しく仕上げることができました。

この実践的な文化体験は、留学生たちが日本の伝統的な和菓子の魅力や美しさを直接体感する貴重な機会となりました。

(2) カップヌードルミュージアム見学

6月15日、アスマン・寺田教授の「Research Seminar II」「Thesis Seminar I」を履修するGBC生と、社会科学部研究科グローバルビジネス専攻の大学院生が、大阪府池田市にあるカップヌードル

ルミュージアムを訪れました。戦後、日本経済の復興期における食習慣の変化をテーマとした研究の一環として実施され、留学生たちはインスタントラーメンやカップヌードルが豊かさと利便性の象徴として位置付けられた背景や、その普及が食生活や消費文化に与えた影響について考察しました。

また、「チキンラーメンファクトリー」のワークショップに参加し、生地をこねて自分だけのインスタントラーメンをつくる体験や、インスタントラーメンの歴史を学び、その考案者である安藤百福に関するドキュメンタリーを視聴し、日本で販売されている多様なインスタントラーメンについて知識を深めました。

本校外学習は、単なる楽しいチームビルディングにとどまらず、世界的に親しまれている身近な製品の背景にある歴史的・経済的価値を深く再認識する実りある学習機会となりました。



(3) 宇治（京都）でのフィールドスタディ

金志教授の「Research Seminar II」を履修するGBC生は、サステナブルツーリズムに関する研究の一環として、京都府宇治市でフィールドスタディを実施しました。本ゼミでは、学期を通してグループごとに関西地域を対象としたサステナブルな観光ツアーの企画立案を行いました。その中から「京都・宇治1日ツアー」が採用され、訪問先として、歴史都市・宇治での現地

調査が実現しました。

現地調査では、参加者が世界遺産である平等院を見学し、伝統的な抹茶作りを体験するとともに、源氏物語ミュージアムを訪問しました。

これらの活動を通じて、彼らは宇治の豊かな文化遺産への理解を深めるとともに、サステナブルツーリズムが地域の伝統を守りながら、訪問者に対して有意義な体験を提供する方法について、考察を深める機会となりました。

3. 国際学生寮（グローバルハウス）の取組

(1) クリーンユニットコンテスト

6月、RA（レジデント・アシスタント）の企画とサポートにより、グローバルハウスで初の「クリーンユニットコンテスト」が開催されました。このコンテストでは、各フロアで共用スペースを最もきれいに保っていたユニットが表彰され、寮生たちの日常的な努力が称えられました。

寮生たちが協力し合うことで、より快適で衛生的な共同生活環境を築くための良い機会となりました。



4. 留学生就職関連

神戸商科キャンパスでは、留学生の就職支援の一環として、学生向けポータルサイト「ユニバーサルパスポート」やキャリアセンター前の掲示板を通じて、就職関連情報をタイムリーに発信しています。また、各種キャリアセミナーの実施や合同企業説明会への参加引率など、留学生が将来のキャリア形成に着実に繋がられるようサポートを展開しています。

さらに、今年度からはキャリアセンターにグローバル担当のキャリアアドバイザーが新たに着任し、学生の国際的なキャリア形成を支援する体制を強化しました。



(1) キャリアセミナーシリーズ&個別相談会

日本での就職を目指す留学生を対象に、6月3日、10日、24日の3日間にわたり、学内でキャリアセミナーと対面形式の個別相談会が開催されました。セミナーに参加した留学生は、日本特有の就職活動の流れや在留資格といった基礎知識を学んだだけでなく、自己分析やエントリーシート作成などの実践的なワークを通じて、自身の強みや目指すべきキャリアパスを具体化する機会となりました。また、各セミナー当日に開催された個別相

談会では、留学生の就職支援を専門とする外部講師に、日本での就職活動に関する疑問や悩みを相談できる貴重な機会となりました。

① セミナー1：就職活動の概要と在留資格について

日本における就職活動のスケジュールとタイムラインの特徴、海外での就職活動との違い、就労可能な在留資格、日本語能力の重要性について講義を受け、実践ワークでは各自の将来設計を描く「キャリアゴールチャート」の作成に取り組みました。

② セミナー2：自己分析

自己分析の重要性を学び、自分の強みや弱みを理解したうえで、適切なキャリアパスを見極める方法について学び、実践ワークではこれらの理解を深めるために「SWOT分析」に取り組みました。

③ セミナー3：履歴書とエントリーシート（ES）の書き方

履歴書とエントリーシートの違いや作成時の重要なポイント、企業研究の進め方、効果的な志望動機のとめ方についてレクチャーを受けたあと、実際に「エントリーシート」を作成しました。

(2) 「神戸市×兵庫県 留学生向け合同企業説明会」への参加

6月17日、GBCの留学生は神戸サンボーホールで開催された「神戸市×兵庫県 留学生向け合同企業説明会」に参加しました。兵庫県内外から約77社が出展するなか、学生の積極的な参加を支援するため、大学から無料直行バスを運行して学生の参加をサポートしました。

会場では、留学生たちが企業説明や採用担当者との直接対話に積極的に臨みました。留学生の参加者数は年々増加しており、企業側でもグローバル人材の重要性が高まっています。本イベントを通じて、学生一人ひとりが目標に沿った企業と出会い、今後の就職活動につ



ながることが期待されます。

5. イベント関連

イベント名	内容
1) RA コーヒータイム (3月31日～4月10日) 	RA 主催の「RA コーヒータイム」が開催されました。寮生活や GBC の授業、学生生活への疑問など、希望者は誰でも参加して語り合える温かな場となりました。参加者はコーヒーや軽食を楽しみながら、先輩たちのアドバイスに耳を傾け、RA とのつながりや友人を作る絶好の場にもなりました。
2) 新入生歓迎パーティー (4月6日) 	美しい桜の木々と春のすばらしい気候のもと、4月に入学した新入生を迎えるウェルカムパーティーが開催されました。RA たちは楽しいゲームや軽食を用意し、留学生と日本人学生がともに楽しみながら新しい友人を作る有意義な機会となりました。
3) クリーンアップイベント (5月14日) 	約 60 名の参加寮生が 4 グループに分かれ、寮内の共用スペース、寮周辺エリア、キャンパス周辺、そして学園都市駅へ続く道の清掃を行いました。本イベントを通じて、寮生たちは清掃習慣やごみの分別について学び、住民や地域社会のための快適で清潔な生活環境を共に築くことの大切さを認識する機会となりました。
4) セタイイベント (6月25日) 	日本の伝統文化に親しむきっかけとして、RA たちはセタイイベントを主催しました。学生たちは折り紙で飾りを作り、色とりどりの短冊にそれぞれの願いや夢を書き込みました。館内に飾られた色鮮やかな笹はグローバルハウスを一気に華やかにし、文化の彩りをもたらしました。

5) 夏の学生交流会
(7月2日)



約60名の寮生が集まり、賑やかな夏の夜をともに過ごしました。ステージでは、ハンガリーやバングラデシュの歌、ピアノ演奏、ギターデュオなど、素晴らしいパフォーマンスが次々に披露されました。さらに楽しいクイズ大会やファッションコンテスト、ビンゴゲームも行われ、参加者全員が笑顔で交流を深める充実した時間となりました。RA たちが思いを込めて創り上げたこのイベントは、グローバルハウスコミュニティのつながりを深め、かけがえのない国際的な友情を育む場となりました。

6) ヴィーガン&ハラル料理イベント
(7月24日、29日)



S&I (Sustainability and Inclusion) クラブは、グローバルハウス1階の i-Square にて「ワールドビーガンデイズ」と題したイベントを開催しました。会場では、ハラル認証やビーガンに対応した世界各国の料理が提供され、多くの学生で賑わいました。初日はメキシコのタコス、フランスのキッシュ、ベトナムのフォーが振る舞われ、2日目は中東地域のフムスとピタパン、インドネシアのチャプチャイ、モザンビークのマタパが提供されました。料理のおいしさをきっかけに参加者同士の会話が弾み、食文化の多様性を実感するとともに、異文化理解と国際交流の輪を広げる貴重な機会となりました。

編集：特任助教 潘建秀、特任助教 シャー サーダー アーメド